

第 10 回 災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2017/10/18)

テーマ：災害科学研究技法としての言語データ分析：テキストマイニングからワークショップまで
場所：東北大学医学部6号館1階カンファレンス室（宮城県仙台市）

10月18日に『第10回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナー』を開催し、当研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野の佐藤翔輔助教が「災害科学研究技法としての言語データ分析：テキストマイニングからワークショップまで」と題して講演を行いました。

言葉の分析においては、近年、テキストマイニングと呼ばれる研究分野が発展してきています。テキストマイニングでは、膨大なテキストや発話情報の中から有用な情報を掘り出し、定型化されていないテキストデータを、一定のルールに従って定型化して整理し、データマイニングの手法を用いながら、相関関係などの定量分析を行う手法です。この手法を用いることで、例えばある課題に対し、どのような観点からの議論がなされたか、またどのような議論が不足していたかを明らかにすることができ、その解析結果を基に今後の議論の方向性を言い出すことができます。災害科学に対しては、種々の災害に対する共通点や相違点、多様性を明確にすることができ、実際に佐藤助教らが以前に行った研究では、中越地震と中越沖地震といった同一地域の二つの異なる性質の災害を比較したところ、「入居」という共通点が見られるのに対し、「ボランティア」や「観光」などのそれぞれに特徴的な言葉も見られています。一方でワークショップは、意見集約の場としての活用や参加・体験型の学習の場として用いられることが多いですが、データマイニングを用いることで、その議論の定量的評価を行うことができます。その結果、グループの持つ特徴や問題点を提示することができ、参加者へのフィードバックやより効果的なワークショップを行うことができます。このような解析から、復興計画や街づくり、その後の防災対策など、効率的・効果的に行っていくことができると考えられます。

言語データ分析はテーマを問わず様々な分野で活用されていますが、看護や精神医学など医療の分野においても、既にその有用性が認められています。さらに災害医学における学際研究への展開が期待されています。



会場の様子



佐藤翔輔 助教